

---

# 空を描く

白石薬子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

空を描く

### 【Nコード】

N6116Z

### 【作者名】

白石薬子

### 【あらすじ】

ブログの習作に載せたものの転載です

原稿用紙四枚程度

文芸部の部室になっている多目的室で、大宮さんは大きな空の絵を描く。

入学式の時から、ちょっと変わった子だった。クラスで大宮さんは自分の名前と。

「空が好きです」

とだけ言って自己紹介を終えた。おかげで高校になってまで自己紹介のテンプレートはとても単純な枠に収まったけれど「空が好き」なんて言ったのは大宮さんだけだった。

「空を描きたいのよ」

大宮さんは私にそう言った。だから美術部に行く。

それなのに大宮さんは今、空の絵を私たちの部室で描いている。美術部は辞めたらしい。決まったモチーフで描くのが嫌なんだとか。大きな模造紙をベニヤ板に画鋲でとめて、壁に立てかけて絵を描く。借りてきた脚立にまたがって青い空の絵を描く。

「大宮さん！ 脚立、乗ったまま動くの止めて！」

「あー」

私の声に、大宮さんは生返事する。

おしりと足で彼女は、器用にかがこ脚立を動かして移動するのだ。危ないと思ったらありやしない。床一杯に広げて描けばいいのに、と言ったら。

「地面に広がってる空なんて、無いでしょ」と言われた。

空は縦で上に広がってるんだもん、と。

大きな刷毛を使って、青を重ねていく。みずみずしく綺麗な色が幾重にも重ねられる。

「やあ、きれいだね」

先輩は褒める。

「まるで大宮さんみたいだ」

彼女は照れ笑いした。空は一段と青くなった。

先輩と大宮さんは二人で帰ることが多くなった。付き合い始めたのだ。大宮さんは変わっている。放課後に一緒に帰るまではずっと空のことばかり考えているのに、校門から一步出たら、もう先輩にしなだれかかって固く手を結んでいる。いや、変わっているのは私のほうかもしれない。そんなふうになっても、私は大宮さんから目が離せない。先輩はいい人だ、と思う。けれどあの日から、大宮さんが先輩と手をつなぐようになってから、私はもう先輩のことをいい人だとは思えなくなっていた。

部屋にくるのは、大宮さんの絵を見るためだ。青いだけの薄っぺらい空。

「いい空だろ」

先輩は言う。

「あの空がいいんじゃないよ？」

あれを書いている彼女が綺麗なんだ」

なるほど、先輩はよく見ている。

真っ青な空。雲ひとつない空。鳥も飛ばない、彼女のためだけの空。汚れない青だけの世界。

彼女はその空の下で、先輩とキスをする。せわしく熱く二人だけのキスをする。私はこっそりそれを見ている。もう大宮さんは学校の中でも、空のことばかり考えていない。先輩のことばかり考えている。私は多目的室に一足先に行って、彼女たちの逢引を盗み見る。苦しくなるくらい私は傍観者で、そして普通に大宮さんと友達だった。

ある日、大宮さんが床に模造紙を敷いた。そして緑を青に混ぜて、深く深く塗っていった。珍しい。どうしたの？ と聞いたら、海を描いているの、と彼女は言った。

「海は曇らないから」

「そのくせ、魚は一匹もないのね」

私の刺のある口調に、一瞬大宮さんは動きをとめて、それからま

た黙って海を塗り始めた。先輩は大宮さんの描く海を見ない。深く暗く、底に底に沈んでいく大宮さんを見ない。波間も立たない、深く暗い海の底を描いて、大宮さんは静かに立ち上がって画材をしまつて、お辞儀をして一人で帰った。

次の日、彼女はベニヤ板を多目的室から持っていった。

今は美術室で、ブルータスの胸像をデッサンする。

私は自宅の部屋に捨てられた海を飾って、深く暗い青に溺れる。

（後書き）

カテゴリにあてはめてタグをつけるのは、これから何を読むのか  
タネ明かしのようでムズムズします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6116z/>

---

空を描く

2011年12月20日16時53分発行